

息骨に触れる
Speaker Attitude

KUNST ARZT では、3年ぶり3度目となる
林葵衣の個展を開催します。
林葵衣は、主に“唇拓*”による音声の保存、
発音する内容と自身との関係性を考察するアーティストです。
本展は、唇の動きとともに音声生成の要素である口内の形状に着目し、
口内で硬化させたポリエチレン樹脂彫刻作品で構成します。
“唇拓”は、柔らかい唇を削るという要素があり、
実は過酷な身体表現でもあるのですが、
この試みはさらに大きなリスクを覚悟して生み出された“言葉の彫刻”です。
言葉を失いに来てください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



Phonation piece internal 01
2021
ポリエチレン樹脂

*唇拓とは、言葉を発声した際の口の動きを口紅の痕跡でタブロー化する試み。

経歴

1988 京都府出身
2011 京都造形芸術大学 情報デザイン学科 映像メディアコース 卒業
2013 京都造形芸術大学 修士課程 修了

主な個展

2020 「息差しの型取り」+2・大阪
2020 「一振りの音」+2
2020 「遊動躰」 Gallery PARC・京都
2019 「詩の復唱」 KUNST ARZT・京都
2019 「対話の時間」 黄金 4422bld・愛知
2018 「しづらえ」 AWOMB・京都
2017 「声の痕跡」 KUNSTARZT
2016 「水の発音」 アートスペース虹・京都

主なグループ展

2021 「CON・CERT walking from +1art to +2」 1art・+2
2021 「文字模似言葉」 ボーダレスアートミュージアム NO-MA・滋賀
2021 「2020年度第4期常設展 画家の痕跡」 高松市美術館・香川
2019 「第六回アラタバンダン展」 クリエイティブセンター大阪 名村造船所跡地・大阪
2019 「京都府新鋭選抜展」 京都文化博物館
2018 「VOCA展」 上野の森美術館
2017 「アート/メディア - 四次元の読書」 国立国際美術館

舞台美術

2018 「文字移植」 こまばアゴラ劇場
2017 「ディクテ」 アトリエ劇研
2018 「文字移植」 アトリエ劇研・ぼんプラザホール

2022年4月23日(土)から5月1日(日)

12:00から18:00 月曜日休み

観覧会会場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博 090-9697-3786 kunstarzt@gmail.com

アーティスト・ステートメント

身体は心拍の影響、呼吸による喉と唇のふるえ、記憶の歪みなどから自分の意図通り完璧には動かせない。これまで反復によるずれ、色彩の残像、音声の保存をテーマにした作品を制作してきた。自分のものではないようにもどかしく思う見えない身体ふるまいと対話し、目に見える形を与え、提示している。

展覧会コンセプト

言葉が生まれる際の形に触ってみたくて、ポリエチレン樹脂を口内に入れ発話し型取りを行った。言葉の形は非常にゆっくりできあがる。喉の奥や歯の裏、舌の周りにポリエチレン樹脂がはりついていく息苦しさや熱さに耐えながらことばをはきだそうとすると、低いうめき声のようなものが喉の奥から出てくる。口内や舌が発声のかまえをとり言葉が発せられるとき、自分の意識はどこか置き去りで、身体は言葉を発するための装置に変容する。吐き出された言葉の形は、まるで人間の骨のようだった。



個展「声の痕跡」 会場風景
2017
KUNST ARZT



高松市美術館での公開制作より
2021



Cut-up of Voice Koe
2020
キャンバス、口紅 サイズ可変



-phonation-「とり」
2020
紙粘土に口紅
110×90×30mm